

支援の質とアカウンタビリティ向上に関する活動状況

(特活) 国際協力NGOセンター (JANIC)

1. 「支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク (JQAN)」による活動

(1) 参考: JQAN の目的

1. 国際社会で共有されている人道支援の諸原則、基準類を理解し、実践できる支援実務者および団体の育成。
2. 継続的に日本およびアジア地域での人道支援の諸原則、基準、応用例などについて教授・指導ができる日本の NGO 人材の育成。
3. 主に日本の国際協力、緊急人道支援、減災防災活動に関わる政策立案者、資金提供機関関係者への提言活動。
4. 日本の国際協力、緊急人道支援、減災防災活動に関わる経験や課題を国際社会としての支援の質とアカウンタビリティの向上に役立てていくための発信活動。

(2) JQAN 活動

国際社会で共有されている人道支援の諸原則 (Core Humanitarian Standard など)、基準類の普及活動、提言活動、人材育成、発信活動などを展開。

① 翻訳活動

Core Humanitarian Standard on Quality and Accountability (CHS) および同基準のガイダンスノートの翻訳作業に着手。翻訳監修委員会にて文言・用語の確定作業中。完成は2016年7月を予定。

② 基準認証組織への参加

- ・ CHS Alliance 理事会に JQAN 代表小美野が着任。同理事会内の資金調達委員に所属。
- ・ CHS 等の基準の実施状況の第三者検証を専門に行う Humanitarian Quality Assurance Initiative <http://hqai.org/> の設立理事として、JQAN 事務局長松尾が着任、事業計画策定に参加。2016年5月世界人道サミット出展、11月理事会兼経験共有セミナー開催。

2. JICA との連携の可能性について :

- ・ 緊急援助隊の派遣人員や国際協力人材への Q&A の普及における協力。2016年度の国際協力人材部主催能力強化研修での実施を検討中。

3. 熊本地震対応

①国際基準の冊子類の提供活動

実績：

- ・ 期間：4月15日—4月末（対応の長期化を踏まえ5月末まで延長）
- ・ 依頼件数：4月3件、5月3件
- ・ 提供冊子数：スフィア・ハンドブック24冊、グッドイナフ・ガイド24冊
- ・ 主な依頼理由：
 - 所属先にて事業実施を検討しているため
 - 被災者支援の参考にするため
 - 緊急支援活動に関わるスタッフが参照します
 - 東日本大震災後、段ボールベッドを考案して普及に取り組んできました。同時に被災者の2次健康被害の予防には避難所の環境改善が必要だと考え、ボランティアで取り組んできました。日本の劣悪な避難所を国際標準レベルまで引き上げないといけなく考えています。その一環で、学びたいと考えています。よろしくお願いします。
 - チーム活動の振り返りと今後の活動に参考とさせていただきたいです
 - 熊本地震の支援として、益城町にてテント村を作りました。その際、日本の避難所のレベルが、国際的にみてかなり水準が低いと改めて知り、今後の避難所の在り方に対して、勉強していきたいと思いました。

② PARTNER 災害対応人材登録制度の発動への協力

1. 本制度の背景と趣旨

本制度は東日本大震災の教訓を踏まえて整備された。同震災支援にあたり NGO が投入した正規・非正規職員数は実数で 500 人弱にのぼったが、その多くが新規の臨時雇用であった。将来の大規模広域災害時にも同等もしくはそれ以上の人材ニーズが発生することが予想されたため、本制度は平時から人材を育成・プールし、非常時のニーズに迅速に応えることを目的に設立された。

2. 本制度設立の経緯

2013年9月30日の NGO-JICA 協議会で、大規模広域災害時に大量に発生する人材ニーズに対応するロスター制度の創設が発議され、その後、3回の協議会を経て2014年6月25日に本制度設立が承認された。制度の設計は JANIC と JICA の関連部署からなるワーキンググループで進められ、2015年3月23日に運用が開始された。

実績：

- ・ 発動日：2016年4月26日（火）
- ・ 掲載件数：4団体5件
- ・ 今後の方向性：
 - 第2四半期中をめぐりに PARTNER 所管部である国際協力人材部と対応手順の更新協議。

以上